

神戸っ子すこやかプラン 2024（案）に関する 意見募集（パブリックコメント）の結果について

神戸っ子すこやかプラン 2024（案）に関し、「神戸市民の意見提出手続きに関する条例」に基づき、意見を実施しました。

1. 意見提出期間

令和元年 12 月 10 日(火)から令和 2 年 1 月 20 日(月)まで

2. 資料の閲覧・配布場所

①こども家庭局こども企画課

②市政情報室

③各区役所・支所・出張所

その他、広報紙 KOBE 及び神戸市ホームページにおいて案内

3. 意見募集の結果

30 通（94 件）… 別添資料参照

【内訳】

仕事と子育ての両立支援

・ 保育施設の整備 62 件

・ 保育人材の確保 10 件

・ 保育士の処遇改善 11 件

地域における子育て支援

・ 学童保育 1 件

・ ファミリー・サポート・センター 1 件

幼児期の教育・保育の質・小学校教育との連携 1 件

子育てしやすいまちづくり 8 件

神戸っ子すこやかプラン 2024（案）に関するご意見及び神戸市の考え方について

※ご意見の主旨を損なわない範囲で要約させていただいています。また、同様の趣旨のものはまとめて掲載しています。

| | ご意見 | 神戸市の考え方 | |
|-------------|---------|--|---|
| 仕事と子育ての両立支援 | 保育施設の整備 | | |
| | 1 | <p>「既存の施設の活用を基本とする」とありますが、児童福祉法 24 条 1 項に基づく自治体の保育実施責任が明確な公立保育所の新增設をはじめとして、0 歳から 5 歳までの切れ目のない保育が保障できる認可保育所の整備を基本にさせていただきたい。</p> <p>きょうだいと同じ保育所に通える、0 歳から 5 歳まで同じ保育所で育てたい、そんな親の願いを実現するために、認可保育所の新增設を必要な地域に計画して下さい。 (27 件)</p> <p>地域によっては小規模保育施設しかなく 3 歳からまた園探しをしなくてはならない。 (1 件)</p> | <p>保育所・認定こども園の新設・分園整備、幼稚園から認定こども園への移行を進めていくほか、ニーズの高い 0～2 歳児を対象とした小規模保育事業などにより、各区域で必要な保育定員を確保していきます。</p> <p>一方で、小規模保育の卒園後の受け皿施設の確保が課題となっていることも認識しており、3 歳児以降の受け入れに重点化・特化した保育施設や保育送迎ステーションなどの整備に取り組んでいきます。</p> |
| | 2 | <p>確保方策と量の見込みを見ると全区で 1、2 歳児の受け入れ枠が不足しています。計画の段階で不足し、待機児童が出るのが明らかな数字が出ており、このプランは当初から破綻しています。せめて量の見込みを上回る確保方策をお願いします。 (26 件)</p> | <p>保育定員の確保方策として、企業主導型保育事業が利用希望者の受け皿として機能すると考えられることから、保育の量の見込みから企業主導型保育事業の定員を除いた数値を必要量としており、各区域で必要とされる保育ニーズに対応しながら整備に取り組んでいきます。</p> |
| | 3 | <p>公立保育所や公立幼稚園をなくさないでください。</p> <p>公立保育所を守ってほしい。</p> <p>公立保育所を新增設・充実してください。 (8 件)</p> | <p>新たな保育施設の整備については民間の活力を導入しながら整備を進めていきます。</p> <p>また、様々な保育ニーズに対応しながら、人口減少社会を見据えた適正な保育施設の在り方を検討していきます。</p> |

| | ご意見 | 神戸市の考え方 | |
|-------------|----------|---|---|
| 仕事と子育ての両立支援 | 保育人材の確保 | | |
| | 5 | 保育の質が向上できるよう、保育士を正規採用してください。 欠員は正規保育士を補充してください。 (6件) | 保育士の配置については、法令等の基準に基づき配置をしています。引き続き、保育人材の確保・定着支援を実施していきます。また、保育の質の向上にむけて、保育士が専門的知識を習得できるよう様々な研修を実施しており、より実践的な研修も取り入れながら、保育現場に活かせるよう取り組みます。 |
| | 6 | ゆとりを持って子どもの保育にあたるよう、保育士の人数を増やして業務軽減をしてほしい。 (4件) | |
| | 保育士の処遇改善 | | |
| | 7 | 若い人材が働きたい、また働きたいと思えるような処遇改善をお願いしたい。 (7件) | 本市では国の処遇改善策に加えて、市独自の給与改善費補助や職員の加配補助など、保育士の処遇改善に取り組んでいます。保育人材の確保・定着のためには、給与面だけでなく、「働きやすい職場環境」を構築することが重要であると考えており、今後も、処遇改善とともに業務負担の軽減に向けた取り組みにより、保育士にとって「働きやすい」「働きたい」環境を創出していきます。 |
| | 8 | ICTの処遇改善ではなく、保育士の給与を上げてほしい。 (4件) | |
| 地域における子育て支援 | <学童保育> | | |
| | 9 | 小規模、指導員の非正規職員の増加で、放課後保育の質は明らかに低下していると思います。早朝・延長保育、高学年の受け入れで在り方が変わっており、それに伴った拡充が必要です。また、夏休みなどはコンビニのパンだけという状況も目にしており食育の支援もしていただきたい。 (1件) | 高学年受入への対応や配慮を必要とする児童への対応等が求められるため、引き続き研修等を実施し、放課後児童支援員等の専門性の向上を図っていきます。 また、学童保育での夏休み期間等の昼食提供については、調理施設を保有していない施設が大半であるため、アレルギー対応や食中毒に配慮しつつ、宅配等の活用も検討していきます。 |

| | | ご意見 | 神戸市の考え方 |
|---------------------------|----|---|--|
| | | ＜ファミリー・サポート・センター＞ | |
| 地域における子育て支援 | 10 | <p>例えば、会員専用の SNS でより気軽に依頼できるようにするなど、もっと便利で使いやすい制度になればと思います。特に今は、放課後に塾や習い事に行く子が多い中で、行けない子との学力格差は著しい状況です。そういった子に対してこの事業を更に活用できないのかなと思います。</p> <p style="text-align: right;">(1件)</p> | <p>ファミリー・サポート・センター事業の利便性向上にむけ、今後、休日や利用時間外でもスマートフォンや PC から気軽に依頼が出来るシステムの導入を検討していきます。</p> <p>また、放課後等に一人で過ごす等の課題を抱える子どもたちのために学習支援・食事提供を行う子どもの居場所づくり事業を引き続き推進していきます。</p> |
| 幼児期の教育・保育の質・ 小学校教育との連携 | 11 | <p>「アプローチカリキュラム」ではなく「接続期カリキュラム」という言葉を使うほうがいいのではないかと。小学校への準備のためのカリキュラムではなく、新幼稚園教育要領を踏まえ幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意味するものとして文言を変えたほうがよいのではないかと思います。</p> <p style="text-align: right;">(1件)</p> | <p>本市におけるアプローチカリキュラムは、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識した保育を行うための指針と考えています。小学校で行われるスタートカリキュラムと合わせて、一人ひとりの子どもの育ちと学びを小学校教育に円滑に接続することができるよう取り組んでいきます。</p> |
| 子育てしやすいまちづくり | 12 | <p>市職員でも男性はかなり育児休業の取得率が低く、父親の育児参加について効果的な施策が殆ど見受けられない。父親の育児参加を促すべきではないでしょうか。</p> <p style="text-align: right;">(1件)</p> | <p>仕事と生活の調和を実現するためには子育てしやすい環境づくりが必要であり、育児休業を取得しやすい環境づくりに向けて、市役所をはじめ企業等への意識啓発に取り組んでいきます。</p> |

| | ご意見 | 神戸市の考え方 |
|--------------|---|---|
| 子育てしやすいまちづくり | <p>13 神戸市立小学校で起きた教諭間でのいじめ問題、兵庫区内の児童館でのいじめ、指導する側の質など、神戸市で子育てしようと思わず隣の明石市へ逃げてしまう。書籍の配付、そして新たにおむつの配付などを実施する明石市や近隣市町と比べて子育て支援は見劣りするようにも思います。 (1件)</p> <p>出生時の贈り物は、カタログギフトではなく、明石のようにおむつにした方が喜ばれると思う。おむつプレゼントは、家庭の様子や虐待の早期発見にも役に立つと思います。 (1件)</p> <p>神戸市もギフトを配るようだが、1年度限りではなく継続して支援をお願いしたい。こども医療費の無償化や中学校給食を無償化してほしい。 (3件)</p> | <p>子ども・子育てを取り巻く環境の変化やニーズに適切に対応できるよう必要な財源の検討や施策の優先順位化を図りながら、引き続き、子育て世代の経済的負担の軽減をはじめとする切れ目ない子育て支援に取り組んでいきます。</p> <p>なお、こども医療費助成については、本市では所得制限を撤廃し、中学3年生までのすべての子どもが無料もしくは非常に低額な一部負担金で受診できる環境を整えています。(1 医療機関等あたり 1日 400 円上限。月 3 回目以降は無料)。持続可能な社会保障制度という観点から、完全に無償化というのではなく一定の自己負担を残す必要があると考えています。</p> |
| | <p>14 若い人たちが神戸に住んで子育てしやすい街・神戸市に住めば安心して子育てができると思ってもらえるような街になってほしい。 (2件)</p> | <p>神戸のまちで安心して出産し子育てできる環境づくりは将来にわたってまちの活性化を維持していくためにも重要であると認識しています。本計画案に定めた方向性に基づき、妊娠・出産期から学齢期における切れ目ない支援により、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいきます。</p> |